# ニューズレター雪氷北信越

No.39 平成6年9月12日
（社）日本雪氷学会北信越支部発行

## 目次

- 平成6年度支部顧問・評議員名簿／見学会・講演会・学習会報告／講演会・学習会の案内／訪中団／その他

## お知らせ

### 平成6年度（社）日本雪氷学会北信越支部顧問・評議員名簿

(平成6年9月12日現在)

<table>
<thead>
<tr>
<th>員名</th>
<th>県名</th>
<th>番号</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>平山征夫</td>
<td>新潟県知事</td>
<td>日浦隆三郎</td>
</tr>
<tr>
<td>中尾容</td>
<td>新潟県知事</td>
<td>大塚久郎</td>
</tr>
<tr>
<td>谷本正直</td>
<td>福井県知事</td>
<td>伊藤仙恵</td>
</tr>
<tr>
<td>栗村康雄</td>
<td>長野県知事</td>
<td>久保田哲夫</td>
</tr>
<tr>
<td>吉村正良</td>
<td>金沢市長</td>
<td>中川正之</td>
</tr>
<tr>
<td>宮越篤</td>
<td>上越市長</td>
<td>下田茂</td>
</tr>
<tr>
<td>西川正純</td>
<td>柏崎市長</td>
<td>中郷孝</td>
</tr>
<tr>
<td>小出弘弘</td>
<td>小千谷市長</td>
<td>津端一郎</td>
</tr>
<tr>
<td>本田欣二郎</td>
<td>十日町市長</td>
<td>丸山久一</td>
</tr>
<tr>
<td>杉浦雄司</td>
<td>見附市長</td>
<td>栗山弘</td>
</tr>
<tr>
<td>内山文雄</td>
<td>見附市長</td>
<td>長岡市長</td>
</tr>
<tr>
<td>三宅義彦</td>
<td>新潟県企画調整部長</td>
<td>武藤克己</td>
</tr>
<tr>
<td>炭谷秀樹</td>
<td>富山県生活環境部長</td>
<td>廣田國保</td>
</tr>
<tr>
<td>西本純生</td>
<td>石川県土木部長</td>
<td>白石昭雄</td>
</tr>
<tr>
<td>安井常之</td>
<td>福井県民生活部長</td>
<td>斎藤虎雄</td>
</tr>
<tr>
<td>松平昭彦</td>
<td>長野県建設部長</td>
<td>古川征夫</td>
</tr>
<tr>
<td>小林進</td>
<td>上越市建設部長</td>
<td>千田靖雄</td>
</tr>
<tr>
<td>佐藤知之</td>
<td>柏崎市企画調整課長</td>
<td>森山義郎</td>
</tr>
<tr>
<td>鳩渡達也</td>
<td>小千谷市建設課長</td>
<td>長坂秀雄</td>
</tr>
<tr>
<td>冨田武典</td>
<td>十日町市営都市計画課長</td>
<td>藤原光裕</td>
</tr>
<tr>
<td>刈谷博</td>
<td>見附市企画財政課長</td>
<td>藤原光裕</td>
</tr>
</tbody>
</table>

## 学習会

富山地区学習会の報告

富山地区学習会が国立極地研究所の伊藤一先生を講師に「Global雪氷学」と題して9月5日（10:00-19:30）に開催された。「北極の氷の変化がどうやって起こるか」の問題を通して地球規模の様々な要因について考えた。

北極の氷の中心から3.5メートルという高さには参加者は一様に驚いていた。参加者は12名で、終了後講師を囲んで懇親会が行われた。

（対馬理事 記）
1994年3月7日（水）13時からピョンゴ氷雪崩見学会とモデル雪崩研究に関する
講演会を合わせたビジュアル模擬雪崩シンポジウムが、56名参加をして10日町市で開催
されました。見学会では、3万個のピョンゴが森北総合研究所10日町試験地にある傾
斜40°の試験斜面を利用して作られた長さ40m、幅90cmの木製シュート上を移
速10m以上の速さで流れ下り、あらかじめ抽選で選ばれた4名の好運なピョンゴ氷雪
崩体験希望者を運んでしまいました。また、講演会はクロス10を会場として行われ、密
度流・大規模・ピョンゴ・発泡スチロールを用いた模擬雪崩研究が、実験の実演やビ
デオ映像などをを使って紹介されました。

抽選に当たった好運な雪崩体験希望者をピョンゴ氷雪崩が襲う瞬間（納口記）

新潟地区学習会のお知らせ

日時：10月12日（金）16:00-17:30
場所：北陸農業試験場 上越市稲田1丁目2-1
TEL：0255-23-4131
信越本線高田駅下車、バス「信越本線高田駅下車」行稲田2丁目下車

話題：「化学工学からみた雪の利用」
小森友明教授（金沢大学工学部）は、現在、流動研究員として
当場において「雪を利用した二酸化炭素除去システムの開発」
に従事されています。そこで今回は、その結果を中心に広く化
学工学的観点からみた雪の利用についてお話しして頂くことに
しました。大勢の皆様のご参加をお待ちしています。

連絡先：北陸農業試験場 地域基盤研究部 気象資源研究室
高見 晋一 TEL：0255-26-3234

-2-
講演会

富山地区講演会のお知らせ

演 題　「グリーンランドの雪」
講 師　熊井 基（C R R E L 研究員）
日 時　10月29日（土） 10時～11時30分
場 所　富山大学 理学部 2号館 3番教室（3F）
問い合わせ先　石坂雅昭（富山市科学文化センター）
TEL. 0764-91-2123 FAX. 0764-21-5950

訪中団

日中雪氷学術交流訪中団帰国報告第一報

4月の支部理事・幹事会で派遣決定されてから、中国科学院と協議しながら計画された雪氷学術交流訪中団は、下記の通り、予定通り実施され、彼村村長以下8名全員無事帰国しました。詳細については、各団員からの報告をまとめて『雪氷北信越』に掲載する予定です。

1. 日 程
8月20日（土）成田発－北京入国
21日（日）北京発－蘭州着
22日（月）9:00-12:00 学術講演会、日本側7名講演
15:00-17:30 学術講演会、中国側7名講演
23日（火）蘭州市内または近郊を観学
24日（水）午前：学術懇談会（今後の交流について話し合う）
蘭州発－ウルムチ着
午後：ウルムチ冬季観光
25日（木）トルファン盆地の観光
26日（金）天山氷河観測所・第一氷河観測
27日（土）ウルムチ発－北京着
28日（日）万里の長城観光
29日（月）北京発－成田着

2. 学術講演会の題目
① 日本の雪氷の特徴
② 気温の変化とその雪氷対策
③ 暖中の積雪とその凍結対策
④ 高域道路の除雪
⑤ 藤の冷熱利用
⑥ 管路による雪氷の水力輸送
⑦ 短期間雪氷強度の連続測定
⑧ 中国の氷河観測所の研究
⑨ 水工建設における凍土の対策
⑩ 中国の氷河サンプル解析研究
⑪ 黄河の水災災害
⑫ ダイモーティングを利用した牧区雪災の調査とアシスタント
⑬ 凍土の熱学特性研究の新しい進展
⑭ 中国の積雪の現状

今回の学術交流に際し、（社）日本雪氷学会北信越支部と中国科学院国際合作局及び中国科学院蘭州氷河凍土研究所から多大なるご支援とご尽力を賜りました。厚く御礼申し上げます。
（田村幹事　記）
平成6年度積雪対策研究発表会のご案内

日時 : 平成6年10月27日(木) 研究発表会 13:30〜16:30
交流会 16:45〜

場所 : 長野市県町528-1 長野ホテル望北館 TEL. 0262-35-3333

プログラム（予定）:
講話 「雪難感」（財）日本積雪連合専務理事 角屋久次
講演 「飯山雪まつりについて」 飯山雪まつり実行委員長 高津日出夫
研究発表1 「積雪地域のドーム建築」（仮題） 信州大学工学部助教授 浅野良晴
研究発表2 「屋根雪荷重の調査と克雪への提案」（仮題） 八戸工業大学建築工学科教授 内山和夫

※研究発表終了後、交流会（懇親会）を開催。
参加費：研究発表会は無料、交流会費 5,000円
申し込み：10月7日(金)までに下記へ
〒850 新潟市新光町4-1 新潟県地域政策課内
財団法人 日本積雪連合 TEL. 025-285-3440
FAX. 025-285-3790

炎暑、湯水...今年の夏の記録

※データは朝日新聞、新潟日報のお天気欄より。最高気温は0〜15時までの記録。
（小林幹事　記）

その他

『ニュースレター 雪害対策』について

ニュースレターに関するお問い合わせは
長岡雪害対策実験研究所 小林俊市
TEL.0258-35-7522
FAX.0258-35-0020

までお願いします。

- 4 -